

富良野中心市街地商店街 (ふらのまちづくり株式会社)

北海道富良野市

2万人のまちに120万人を呼び込んだ、 フラノマルシェの奇跡のその先へ



取組の背景

駅前の賑わい拠点 「コンシェルジュフラノ」の開設

富良野市では、2016年3月に中心市街地の象徴的存在として地域の住民に愛されていた駅前の大型商業施設「三番館ふらの店」が閉店した。その空き店舗ビルの活用が問題となったが、ふらのまちづくり(株)は富良野市の協力も得てこれをリノベーションし、賑わい創出の新たな拠点として活用することを提案した。2018年6月、同施設をリノベーションし、「観光・滞在・食」をテーマとしたおもてなし複合施設「コンシェルジュフラノ」としてオープンさせた。これを「マルシェ」「マルシェ2」に続く「第3のまちの縁側」として富良野エリアの更なる質的向上を目指すとともに、多様なニーズに対応する拠点と位置づけて取組を進めている。同社は、商工会議所等関係機関と連携し、フラノブランドの商品開発を行い、それをマルシェ等で商品展開するといった取組も行っている。このような取組からも、ハード・ソフト両面からの取組により、富良野の地域商店街の賑わい創出に大きく寄与している。



マルシェ2の外観



おもてなし複合施設「コンシェルジュフラノ」

取組の内容

駅前地区の課題解消と観光客誘致の機能を果たす拠点

同社は「マルシェ」「マルシェ2」に続く「第3のまちの縁側」として富良野エリアのさらなる質的向上を目指すべく、空き店舗ビルをリノベーションして「観光・滞在・食」をテーマとしたおもてなし複合施設「コンシェルジュフラノ」を2018年6月にオープンさせた。施設には次の3つの機能を持たせ、集客を果たしている。

- ①多言語対応ができるスタッフの配置とともに、外国人観光客の嗜好動向に合わせた着地型商品の企画・販売、地元で生産・加工した商品を販売するスーパーニアショップの設置等、安心な滞在・感動・満足度向上により長期滞在やリピーター拡大につなげる「コンシェルジュ・ショップ」
- ②急増するインバウンドの受け入れ拠点として、安価な料金体系でシェアキッチン等も整備。本施設をハブとする、富良野・美瑛広域観光圏内着地型商品の開発によって広域圏の周遊を促し、長期滞在可能とする「簡易宿泊施設」
- ③地元食材を使った創作メニューを中心に道内の旬の食材と組み合わせ、外国人観光客や地元市民に地域ならではの食事等を提供する「地産地消レストラン」
このような流れから、同社では現在「食による交流空間」をコンセプトに、まちなかの拠点に連続性を持たせることによって「まちなか回遊」と結びつけることを目的とした再開発事業に着手している。

昨今、富良野市を訪れる外国人観光客が急増しているが、同市中心市街地では経営者の高齢化等を理由に、宿泊施設の廃業が相次ぎ、その結果、受け入れ施設の数やバリエーションが不足してきたため、インバウンドの需要が他地域に流れていく状況が続いていた。そこで、「コンシェルジュフラノ」では、外国人やフラッシュパッカーなどの需要が高いドミトリー形式の簡易宿泊施設を備え、多言語に対応できるスタッフを採用、着地型観光に関する情報を発信するインフォメーションカウンターを設置する等、インバウンドのニーズに応え、新規顧客やリピーターの獲得に向けた取組を行っている。



着地型商品の企画販売施設「スーパーニアショップアルジャン」

取組の成果

5年で20%地価上昇
地方都市のまちづくりの奇跡

同市の「認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告」によれば、「居住人口」「小売店舗数」「歩行者通行量」は2017年度に当初の目標値を達成した。これらは、同社が実施したまちなかのコミュニティ再生に向けたトータルマネジメントによる効果が大きい。施設来場者の増進が歩行者通行量の増加を促し、それを見た市民がまちの活気を肌で感じ、商業者がビジネスチャンスを見い出して投資を誘発し、小売店舗数の増加につながった。このような結果、国土交通省と北海道が発表している沿線の商業地基準地価は、2016年には6.1%、2017年には4.4%、2018年には1.3%と対前年比が上昇を続け、2013年対比では20%の上昇となった。北海道は「フラノマルシェの集客効果、再開発事業への期待感による大幅な上昇」と捉えている。

実施体制

同社は27名の社員で組織され、フラノマルシェ、コンシェルジュフラノの経営やチャレンジショップの運営等中心市街地活性化業務を担う。また、地域物産販売・振興を行う(株)富良野物産観光公社や商業施設運営・コンサル業務を行うコミュニティマネジメント(株)と連携してまちづくりを行う。同社の資本金は8350万円で、市、商工会議所、商店街、民間団体・市民ら56名が出資者である。現在は、2018年度地域・まちなか商業支援事業費補助金(中心市街地再興戦略事業)を活用してタウンマネージャー2名を招聘し、今後のハード事業に係る基本計画の立案や、魅力ある商店街の形成に向けた助言・指導を受け、事業を進めている。

キーパーソンからのコメント

ピンチをチャンスに

まちなかの大型施設の閉店は、隣接する商店街にとって大きな痛手、マルシェ事業の成功で、にぎわいが復活しつつある中活の流れに水を差しかねない大ピンチでした。「空きビルを新たな集客装置としてリノベすることは出来ないものだろうか」議論の中から生まれたキーワードは「インバウンド・簡易宿泊・食」。いずれも富良野の活性化に欠くことのできない重要テーマでした。

にぎわいを点から線へ、線から面へ

「コンシェルジュフラノ」の誕生で、まちなかのにぎわいは点から線、線から面へと拡大しつつあります。これまでの一連の取り組みによって生まれたまちなかのにぎわいが呼び水となって新規出店も相次ぎ、まちなかは大きく変貌しつつあります。この流れを公民協働で止めることなく推進し、次世代に自信をもって渡せるまちを創って行きたいと考えています。



富良野商工会議所
専務理事 大玉 英史(左)
ふらのまちづくり株式会社
代表取締役社長 西本 伸顕(中央)
ふらのまちづくり株式会社
専務取締役 湯浅 篤(右)

商店街の概要

富良野市内には開拓期から営業する老舗も多いが、富良野駅前再開発事業の影響で、廃業、地区外移転する事業者が増加。その結果、商店街の魅力低下を招き、歩行者通行量が大幅に減少し商店街運営にも困難をきたしていた。そのような中、ふらのまちづくり(株)は、2003年にまち全体の活性化を図る組織として、民間を中心とした活性化の諸事業の効果的な企画・調整・事業推進を目的に設立された。同社は富良野市中心市街地活性化協議会のコアメンバーとして、基本計画構想を同市に提言。計画認定後は、その実現に向け、集客施設「フラノマルシェ」、再開発事業にて「ネーブルタウン」、隣接する商業施設「マルシェ2」を整備し、賑わい創出を図ってきた。

- 所在地 北海道富良野市幸町
- 人口 約2万人(富良野市)
- 電話/ 0167-23-5177
- FAX/ 0167-22-0511

- URL <https://www.furano.ne.jp/furano-machi/>
- 会員数 56名
- 店舗数 18店

- 商店街の類型 エリア価値向上型
- 主な客層 家族連れ(親子)、国内観光客/40歳代、50歳代